

令和3年6月8日 参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 日本維新の会の松沢成文です。

私は、今日も教科書の問題、教科書検定についてお尋ねしていきたいと思えます。

四月に我が党の馬場幹事長が提出した政府に対する質問主意書の答弁書で、さきの大戦中に行われた朝鮮半島から日本本土への労働者動員について、強制連行、強制労働と表現することが不適切であるということを政府は初めて明らかにしたんですね。

高校の歴史教科書では、この強制連行、強制労働という表現とともに、これは今後使わないで徴用という言葉を使うということになったんです。今日はそれはいいんですけども、それと同時に、教科書では、旧朝鮮半島出身労働者の総数を約七十万人あるいは約八十万人とする教科書が幾つもございます。

これは、本人の自らの意思に基づかず、日本本土での労務に従事させられた朝鮮半島出身労働者の総数を示していると文脈からは理解されますが、これらの数字は政府の統一的な見解と合致するものなんでしょうか。お答えください。

○政府参考人（岩井勝弘君） お答え申し上げます。

政府としては、旧国家総動員法により徴用された朝鮮半島出身者の人数については把握しておりません。

○松沢成文君 把握していないと威張られても困るんですが、いろんな学者さんがいろんな説で、百万以上いたというのもあれば七十万とか、相当幅のある学者さんの見解を出しているんですね。

さあ、厚労省、おおよその人数も分からないんですか。

○政府参考人（岩井勝弘君） 先ほど御答弁申し上げましたとおり、把握しておりません。

○松沢成文君 これから把握するように努めてください、政府なんですから。

検定を経た中学、高校の教科書の中で、本人の自らの意思に基づかず日本本土での労務に従事させられた旧朝鮮半島出身労働者の総数を約七十万人、約八十万人として表現している教科書はどれぐらいあるんでしょうか。現在既に使用されている教科書も、今度の検定で通って来年から使用する教科書だけじゃなくて、今使用している教科書も含めてどれぐらいあるか、お答えください。

○政府参考人（串田俊巳君） お答えいたします。

御指摘のような、本人の意思に基づかず日本本土での労務に従事させられた朝鮮半島出身労働者の総数を約七十万人や約八十万人として表現している教科書の状況でございますけれども、まず、令和三年度から使用されております中学校の社会科の教科書につきましては記載はございません。また、令和四年度から使用されております高等学校からの、使用されます高等学校の教科書につきましては、地理歴史科の歴史総合におきまして七点中四点の記載がなされております。さら

に、今年度の高等学校におきまして、今年度の高等学校において使用されている教科書におきまして、地理歴史科の日本史におきまして、日本史Aの科目では七点中三点、日本史Bの科目におきましては八点中二点の記載がなされているところでございます。

○松沢成文君 こうした数字が、政府の統一見解、ないんですよね。政府は分からないって言っている。それなのに、教科書には七十万、八十万、それも、それと併せて強制連行、強制労働という言葉で出てくるのが多いんですよ。どうして教科書でこういうことが独り歩きして、それでいいんでしょうかね。

文科省は、政府の統一見解が出た場合はそれに従ってもらわなきゃ困るので教科書は直してもらおうと、こういう方針ですよ。そうであれば、大臣、強制連行、強制労働という表現とともに、この総数の表現についても教科書会社が訂正すべきであると私は考えますが、大臣はどう考えますか。

○国務大臣（萩生田光一君） 政府の統一的な見解があれば、それはその後是正をしていくことが望ましいと思います。

○松沢成文君 じゃ、確認しますが、また国会の方から質問主意書でこの朝鮮半島出身労働者数の総数はどれぐらいだったかと、それ、あるいは七十万、八十万が正しいかという質問主意書が出て、それは正しいとは言えないという政府の答弁書が出たら、教科書もそれとともに変わっていくという御認識でよろしいんですね。

○国務大臣（萩生田光一君） 個別の件、また仮定の質問にはなかなか答えづらいんですけども、政府としては基本方針は示しているとおりでございますので、仮にそういう事実関係が明確になれば、特に、先生自身もおっしゃっていたように諸説いろいろありますし、本人が望んで労働に参加された方たちもいらっしゃるし、いろんなケースがあるので、厚労省の方で人数把握していないということになるとなかなか統一見解を出しづらいという問題もあるんだろうなというふう

に推測します。

○松沢成文君 今後、これもまた質問主意書等でも、含めて詰めていきたいと思っています。

さあ、次に、自由社という教科書会社の中学校歴史教科書の検定の仕方について、私は極めて問題が多いんじゃないかということとを一年前から実はこの委員会でも指摘しているんですね。

この自由社の教科書は何と、昨年か一昨年というのかな、の検定で四百五か所の検定意見が付けられて、そして、その検定意見の基準があるんですね、それを二十九か所上回るとして、年度内に再申請ができない一発不合格という新しい制度でこの教科書検定不合格となって、要するに認められませんから採択まで行きませんでした。その後、自由社は再度申請して、翌年度に再申請をして合格していますけれども、既に他の教科書の使用が各自治体では始まっているために、残念ながら今後採択される可能性は極めて少ないと言わざるを得ません。

このように、教科書の運命を左右する一発不合格という基準は、これ極めて曖昧であって、審査する側の主観によって変わるようなものであってはならないんですね、教科書会社の運命を握っていますから。

しかし、新しい歴史教科書をつくる会が本年四月に発表した資料、産経新聞も一面で広告で載っていましたが、不合格とされた自由社の教科書と同じ記載が他社の教科書でもあるのに、自由社だけが不合格とさせられたのが三十一件もあったと。これが合格だったら、一発不合格になっていなくて、自由社の教科書は検定通っていたんですね。もう極めて、何か私から見ると恣意的な教科書調査官の判断によって自由社の教科書が殺されたと言っても過言ではないというふうに私は思っております。

さあ、そこで、時間が限られています。これもう三十か所以上あるんですが、三十一か所の中から三点について質問していきたいと思います。皆さん、資料配っていますので見ていただきたいと思います。

一番目は、長屋の一角を示す写真とその説明なんですね。ここで検定意見が付きました。生徒が誤解するおそれのある表現であると。これ、同じ写真使っています、自由社と学び舎。そして、下のこの説明がちょっと違うんですけども、これで自由社は駄目だと、学び舎は丸だと。こういう訳の分からない自由社いじめの検定が横行しているんですね。

これ、何で自由社が駄目なんですか。

○政府参考人（串田俊巳君） お答えいたします。

検定につきましてですけれども、まず、教科用図書検定基準等に基づきまして、教科用図書検定調査審議会の学術的、専門的な審議の結果、図書全体の記述の整合性などを勘案いたしまして、検定意見を付すか否かといったことを判断しております。

したがって、他社には検定意見を付していないのに自由社には検定意見を付したというものにつきましても、それぞれ理由があって意見を付しているというものでございます。

教科書検定におきまして、建物の場合、取り上げている場合、復元であるかどうか分かるように表記することを求める一方、設備には復元であるか否かの表記は求めているということがございます。御指摘の自由社の写真につきましては、長屋の四畳半の部屋の内部の写真と並んで掲載されているものでございまして、建物としての長屋を取り上げているのに対しまして、学び舎の写真につきましては、井戸など個別の道具設備類を模した展示物を取り上げているということがございましたので、意見を付していないというところでございます。

○松沢成文君 これ、建物をいう場合は復元というのを書かなきゃいけないと言っているんですね。でも、実は自由社の教科書でも、深川江戸資料館のフロアに仕付けられた展示であるから、誰もがこれ現地であるという誤解する者はいませんよ、これ全て復元の写真なんですから。こっちは復元言っていないからという

んですね。じゃ、長屋というのは建物だから復元言わなきゃ駄目だと。じゃ、便所というのは建物じゃないんですか。だから、こういう議論になっちゃうんですよ、皆さんがやっているあら探しは。ここ、しっかり考えていただきたい。

どうしてこういうことをやるのかということですね。ほかの教科書会社は同じ写真使って説明している。こちらだけは、長屋というのがあるから、これは復元書いていないから、これ落としてやる。どうしてでしょうかね。国民理解できませんし、生徒は一人も誤解しません、言っておきますが、こんなことで。これは復元と書いていないからこれは復元じゃないのかな、どうしようなんという生徒は誰もいませんよ。

さあ、次行きます。

東京オリンピックですね。前の一九六四年の東京オリンピックには九十三か国五千五百八十八人が参加しましたと。さあ、これにまた、生徒が誤解するおそれがあるという表現が付いているんですね。これ、九十三か国が駄目なんだと言うんですが、いや、ほかのちょっと教科書会社見てみたら、東京出版は九十三か国の国と地域からと、地域が入っているからこっちが正しいのかなと。学び舎も国と地域九十三になっています。じゃ、こっちがどうしても正しいと言うのであれば分かりますが、じゃ、今度、日本文教出版は、一九六四年には九十四か所の選手を集めてアジアで初めて開いたオリンピック、これは丸なんですね。どれが正しいんですか。

さあ、これちょっとスポーツ庁に伺いますが、一九六四年の前回の東京オリンピックには何か国、参加した国は何か国なのか。それから、九十三か国と記載されていますが、文献もこれ非常に多く見られますが、この認識は誤りなんですか。誤りとした場合、その根拠を明らかにしていただきたい。

○政府参考人（藤江陽子君） お答え申し上げます。

一九六四年東京大会の参加国数につきましては、日本オリンピック委員会、JOCのホームページにおきましては九十三の国と地域というふうに記載されているというふうに承知しております。

一方、一九六四年の東京大会当時の大会組織委員会の報告書では九十四か国と記載されているというふうに認識しております。

なお、この参加国数の記載が複数というか、ある理由につきまして、JOCに確認させていただいたところ、JOCでは、IOCから示された最新の資料に基づき公表を行っているということで、当時の大会組織委員会の報告書と記載が異なる理由などは承知しておらず、また、当時の資料を改めて確認することは困難であるというふうに聞いております。

○松沢成文君 じゃ、文科省に伺います。

前回の東京オリンピックの参加国は、九十三か国が正しいのか、九十三か国の国と地域が正しいのか、九十四か国が正しいのか。これ、正解は一つにしてもらわないと困りますよ。どれですか。

○政府参考人（串田俊巳君） 一九六四年の東京オリンピック大会の参加国数についての御質問でございますけれども、先ほど参考人からも答弁ありましたが、九十三の国と地域との表現がJOCのホームページにあること、それから、日本史の主要な事典類におきましては、東京オリンピックの参加国数は九十四とされていることから、この両者については根拠がある数字と判断されております。

一方で、九十三か国との表現につきましては、信頼性のある根拠が確認されていないということもございまして、審議会におきましては、欠陥であるとの判断がなされ、意見が付されたということでございます。

○松沢成文君 串田さん、自由社の教科書、前の検定は九十三か国で通っているんですよ。もう支離滅裂、あなたたちが言っていること。そうやって重箱の隅の隅みたいところをつついて、とにかく不正箇所というのを積み上げていってやろうと、四百か所を超えれば自由社の教科書をどうにか落とせるぞと、そうやっているとしたら思えませんよ、こんな細かいことで。めちゃくちゃですよ、前回は通っているのに今回は通さない。こういうことをやるんですね。

さあ、それから最後です。

もう一つ、この警備する武士、帝国書院、警備の武士、自由社、これはバツだというんですね。この警備の武士、僧兵たちという言葉が、生徒が誤解するおそれがあるというんですけれども、これ何で誤解するんですか。

○政府参考人（串田俊巳君） 御指摘いただきました写真が比較されてございま

すけれども、まず、帝国書院の写真でございますが、この写真で上皇の近辺に控えている者が武官とすることが適切な表現であるところ、帝国書院の写真におきましては警備する武士とのタイトルがございますし、また、その説明におきましては警備に当たる武士たちと記述されておきまして、武士以外に武官が描かれているということが読み込めるということから、意見を付さなかったということでございます。

なお、この帝国書院につきましては、この箇所につきまして、写真のタイトルにつきまして、警備する武士から警備する武官に修正するといった訂正申請がなされているところでございます。

○松沢成文君 教科書会社の方がちゃんと正直で進んでいますよ。その後、ちゃんと訂正してきたんですよ。文科省のこの検定が何かおかしいなと気付いたんでしょうね。

さあ、実は、自由社でも、説明の中で、これちょっとぼけちゃっているんで見にくいですけれども、お供の貴族、警備の武士、僧兵たちとって、たち使っているんです。だから、武士だけじゃない、武官もいたというんでしょう。たちがないから問題だというんでしょう。本当にたちが悪いですよ、あなた。ちゃんとたちも付いているんですよ。これで自由社はバツだ、帝国書院はマルだと、こういう検定やっているんですよ。こんな細かいところまで見付け出して、よし、これ使えるぞ、検定箇所に入れてやれとどんどん積み上げていって四百三か所に

して、それで一発不合格の制度を今度つくった。よし、超えた、抹殺してやった、万歳ということでしょう、としか思えないんです、私。言葉悪いけどね。

皆さんも一生懸命やっているんだと思いますが、ただ、これは常識的に、日本の人たち、あるいは日本の生徒の父母が見ても、どうしてこっちがバツでこっちがマルなのと、ちょっとこれダブルスタンダードじゃないと。こんな細かい、たちが入っていないとか、長屋の隣に復元が付いていないとか、全体の文脈から見れば、そんなことを気にする生徒なんか誰もいませんよ、誤解する生徒はゼロですよ、言っておきますけど。こんな細かいことをやって検定箇所を積み上げて、一発不合格制度をつくって、もう問答無用ですから。

例えば、これを文科省が、ここいら辺直してくれれば、ちゃんと訂正していいですよというチャンスがあれば、自由社だって直すでしょう。一発不合格ですから。四百三か所、はい、終わりなの。あなたたちは検定通りませんでしたから、地方自治体の採択には行けませんよ、選ばれませんよ、さようなら、こういうことでしょう。

私は、大臣、この制度は絶対に改革しなきゃいけないと思っているんですよ、大臣。公正な検定をやるために、一発不合格というのはおかしいですよ。教科書会社と協議しなきゃ。文科省の見解はこうですと、教科書調査官の見解はこうですと、あなたたちちょっとこれおかしいんじゃないですか。それで、教科書会社は、ううん、なるほどと、そういう考え方もあるし、じゃ、ここは正確を期そう

とって直したら通してあげるといふ、それをやらないで一発不合格。四年間、教科書会社は教科書一冊も売れないんですよ。

こういうふうな機会を奪っていいんでしょうか。私は、リベラルな教科書、コンサバティブな教科書、これあっていいと思うんです、両方とも。よっぽどひどい教科書は落とす、でも、教科書の訴え方というのはいろいろあっていいと思う。それを地方自治体が、うちの自治体はこれがいいと選べるわけですから。その多様な教科書で気に食わない方を全部抹殺しようとするのができちゃう制度なんです。大臣、そう思いませんか。

私は、この制度は、次の検定に向けて一発不合格の制度は絶対に改革すべきだと思う。それがこうした誤解を生まないようにするための公正な教科書検定につながるとは思いますが、大臣、見解を求めます。いかがでしょうか。

○国務大臣（萩生田光一君） 教科書検定は、教科書検定基準等に基づき、教科書検定調査審議会の学術的、専門的な審議により行われるものであって、それぞれの分野の専門家や学校現場の経験のある教員など複数の委員の視点による厳正な審査が行われています。その際、他社の図書では必要な記述が他のページでなされているケースがあるなど、それぞれ理由があって自由社とは異なる扱いになっているのであり、特定の社の図書を不合格とするような政治的意図があったとの御指摘は当たらないと思います。

御指摘の一発不合格と呼ばれているのは、欠陥が百ページ当たり百二十件以上

ある場合は翌年度に再申請とする仕組みです。これができた契機となったのは、平成二十六年度中学校歴史教科書の検定において、当初申請で不合格となった二社の欠陥箇所数が著しく多く、年度内に再申請から検定決定まで行う上で十分な時間的余裕がない状況が生じたことであり、それが審議会において課題とされました。

このことの反省を踏まえ、児童生徒により適切な教科書を提供するため、百ページ当たり百二十件以上という欠陥箇所が著しく多いものについては、図書の修正に十分な時間的余裕と審議会での審議に十分な時間を確保する観点から、年度内の再申請を認めず翌年度の再申請とする制度改正を平成二十七年度に行いました。このような制度改正の趣旨は現在も重要であると認識しており、現行の再申請の仕組みを見直すことは考えておりません。

○松沢成文君 大臣、私、教科書課が書いた弁解を聞きたいんじゃないんです。政治家として、この不公正な制度、誰が見てもおかしいと思われる制度を、文科省の官僚が反対しても、それをやらなきゃ駄目だときちっと政治判断するのが大臣の役割でしょう。私、本当に今の答弁聞いていて、教科書課の書いた文章をとにかく無難に読めばそれで過ぎるんだと思っている、本当がっかりですよ。

最後にいたしますけれども、私、いろいろ指摘してきました。例えば、徴用の問題でも完全に、韓国人と中国人を徴用したなんという言葉が入っている、これ完全に間違いですよ、中国人は徴用していませんから。でも、それはスルーする

んです。それで、こういう細かいこと、たちが入っていないとか、長屋は復元なのにそれが入っていない、便所は入っているのかと。こんな細かいことをどうにか見付けてやろうという教科書調査官の在り方もおかしいと思う。だから、私は教科書調査官の資質は大丈夫なのかという質問もさせていただいたんです。

教科書検定の問題、これから採択の問題も私は取り上げようと思っていたんですが、時間ないからやめますけれども、どうか大臣、政治家としてこの不公正極まる今の教科書検定制度をしっかりと見直す、そういう改革心を持っていただきたい。そのことを訴えて、質問を終わります。どうもありがとうございました。